

研究発表会 報告

研修に活用できる特設サイト

- ・今年度の報告書や発表冊子をPDFでダウンロードできます。
- ・研究発表会の発表I～発表IIIを教育センターWebサイトでいつでも閲覧できます。【認証領域:要ID/パスワード】



学びは、子どもの手の中に

研究協議



「学びは、子どもの手の中に」をテーマに研究協議を行いました。協議では「児童生徒主体の学びのための単元構成の工夫」に焦点を当て、明日から「今の自分にできること」についてグループで話し合いました。

参加者はデジタルツールを用いて意見を可視化し、まとまった時間を子どもに委ねる方法や、ICTの効果的な活用場面についてアイデアを共有しました。さらに、授業に難しさや物足りなさを感じている「あの子」も含め、誰一人取り残さないための工夫についても議論を深めました。

異なる校種の先生方との対話や、他グループの意見の参照を通して新たな視点を獲得など、実践に向けた具体的な気づきを共有する有意義な時間となりました。



対話しながら自身の考えを整理

指導主事との対話

異なる教科や校種の先生方との交流

参加者の声

クラウド環境で考えを共有

異校種の先生方との協議を通し、小・中学校それぞれの実態や、学校段階を越えた指導のつながりを深く実感しました。小学校の立場として、子どもたちが中学校へ進学するまでにできるようになってほしいことや、身に付けるべき資質・能力を再確認する有意義な時間となりました。

校種や年代の異なる先生方との交流を通して、学びを整理することができました。Figmaで共有している時に目にした「学びやすさと学びがいのバランス」という言葉が印象に残っています。先導するのではなく、生徒の主体的な学びを支える伴走者になりたいと思いました。

異校種や他教科の先生方との意見交流を通し、同じテーマでも多様な切り口があることに気づき、視野が大きく広がりました。自分にはない視点に触れることは、新たな考え方を獲得する貴重なチャンスだと実感しました。自身の職場でも、日常的に対話や意見交換ができる機会を作っていきたいです。

発表II

令和の日本型学校教育の構築の推進に向けた調査研究 児童生徒主体の学びを創る ―改めて大切なことを整理する―



全ての児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」を通して資質・能力を育成できるよう、単元ベースの授業づくりを提案しました。資質・能力の育成を目指す単元構成に焦点を当て、児童生徒主体の学びを実現するための3つの視点を示し、参加者同士で意見を交流しました。



研究発表冊子【認証領域】

参加者の声

「資質・能力が育まれた児童生徒の姿を具体化できているか」という問いを通し、深く考えさせられました。授業後、「あの子」がどのような姿になれば目標達成と言えるのか。その具体的なイメージを持つことこそが、授業づくりのスタートであると改めて認識しました。

教員が設定するゴールと生徒の思いは必ずしも一致しません。与えられた正解を探すだけでなく、自らの選択や考えを正解にしていく過程が大切だと感じました。児童生徒の主体的な自己調整を促しつつ、生きて働く力を引き上げていくという教師の責任について、改めて考えさせられました。

発表III

児童生徒が主体的にICTを活用して取り組む学習の充実に向けた調査研究 仲間と共に「学び手としての主人公」に



児童生徒が「学び手としての主人公」となるためのICT活用について提案しました。思考の過程を蓄積して自己の学びを捉え直す「記録・記憶」と、他者の多様な考えに触れて学びを深める「共有」の2つの機能に焦点を当て、一人一人の学びを支え、多様な学び方に対応する授業づくりについて、共に考えました。



研究成果報告書

参加者の声

子どもが「学び手としての主人公」になれるよう、単元全体を見通した教材研究の重要性を実感しました。また、ICTの「記録・記憶」機能を活かした随時の振り返りや、「共有」機能により多様な考えに触れる機会を増やすことで、学級全体の学びが深まる授業づくりに取り組みたいです。

個別最適な学びにおいて、ICTによる「記録・記憶」と「共有」は可能性を大きく広げます。しかし「使っただけ」では効果が薄く、生徒自身のアウトプットや振り返りが不可欠です。学習を深めるため、そのタイミングや方法を生徒が自ら習得できるよう、継続的に働きかけていきたいと感じました。

発表I

全国学力・学習状況調査及び香川県学習状況調査結果分析



全国と県の学習状況調査の結果から、児童生徒主体の学びとICT活用の現状を分析し、提案しました。児童生徒の主体的な学習の調整やICTの活用についての課題を浮き彫りにし、「学びは子どもの手の中に」を実現するための教師の指導の在り方を提起しました。



令和7年度 全国学力・学習状況調査報告書
令和7年度 香川県学習状況調査報告書

参加者の声

調査結果から、見通しや振り返りが主体的な課題解決に直結することを知り、児童の意欲を引き出す教師のコーディネートの重要性を再認識しました。児童に学びの過程をたどらせるため、単元計画や学年を越えた指導の系統性について、今後さらに研修を深めていきたいです。

県調査の結果から、「自分に合っているか」と「自分で選んだり決めたりしているか」の開きを知りました。児童生徒が「自分で考え、自分から取り組んでいる」と実感するには、「自分事」や「自己調整」が不可欠です。その中で、教師がどう指導性を発揮するかが重要であると学びました。